

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	17HP2010	事業期間	平成29(2017)年度～ 令和3(2021)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
家禽産業研究領域のトップジャーナル を目指した国際情報発信力強化		日本家禽学会	会長・古瀬 充宏
学術刊行物の名称			(略称)
The Journal of Poultry Science			J P S

【令和元(2019)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>家禽という特殊な研究分野において、既に欧米には主要な学術誌があるなかで、日本を中心に、アジア発の国際誌 The Journal of Poultry Science を目指すという目標は高く評価できる。目標達成に向けた取組も多様で、効果的なものも多いと評価できる。PMC への掲載が遅れているため、ダウンロード、アクセス数などはやや目標を下回る数値となっているが、PMC 掲載が達成されれば十分改善されることが期待できる。ただし、インパクトファクターに関しては PMC の掲載を機に大幅に改善されるかという点については、やや疑問がある。雑誌の認知度の上昇とインパクトファクターの上昇は短期的には相関せず、また雑誌の認知度の上昇と掲載論文の質の向上も短中期的に効果はない。一方で論文の質の向上とインパクトファクターの向上は、長期的に見れば関連することは間違いない。申請書の目標値の達成を実現する努力は重要であるが、論文の質の向上に向けた対処的取組（PMC 掲載や学会での投稿呼びかけ）以外にも、本質的な論文の質の向上のための取組（学会員の意識の改革や若手会員への投稿応援取組）等の、数値目標だけをゴールとしない取組にも期待したい。</p>	